

第 1066 回教育委員会 会議録

平成 31 年 2 月 13 日

13:00~14:10

①開 会

<廣瀬教育長>

ただいまから、第 1066 回教育委員会を開会いたします。

<廣瀬教育長>

議事等に先立ち、申し上げます。

さきほど、3名の傍聴の申出があり、これを許可しましたので、御了承願います。

②会議録署名委員の指名

<廣瀬教育長>

会議録署名委員に、山川委員と森岡委員を指名いたします。

③会期の決定

<廣瀬教育長>

会期は、本日一日としていかがですか。

<各 委 員>

異議なし。

<廣瀬教育長>

御異議なしと認め、会期は本日一日に決定いたします。

④報 告

<廣瀬教育長>

議事に先立ち、報告があります。

(1)「平成30年度『未来に伝える山形の宝』登録について」、文化財・生涯学習課長から報告してください。

<文化財・生涯学習課長>

平成 30 年度「未来に伝える山形の宝」の登録について、御報告申し上げます。

山形の宝は地域に残る有形・無形の様々な文化財を一つのテーマで結びつけ、面として保存・活用していく取組みを登録するものですが、平成 30 年度は 1 件が登録されることとなりました。3 月 11 日に登録証の交付を予定しています。

別紙 1 と 2 を御覧ください。新たに登録されたものは、「海とともに生きた人々の祈り ～遊佐町浜通りの漁業・海運に関わる歴史文化財～」をテーマとしまして、遊佐町の白木、青塚、服部興野、十里塚、吹浦地区を含めた、通称浜通り地区を中心とした取組みになります。

ストーリーとしましては、江戸から大正にかけて、浜の漁師たちが北海道の漁場に大挙して出かけまして、中にはニシン漁で大成功して莫大な富を得て故郷に豪邸を建てる者もいたということです。しかし、悪天候のときには命を奪われ、その供養と海上の安全を見守る磨崖仏や石造観音像などが残されています。

活動内容としまして、文化財の保存調査・修復、講演会や探訪ツアー、企画展の実施、文化財マップの作成・情報発信ということで、文化財の

保存、普及啓発、情報発信等の取組みを実施していくということとしております。以上でございます。

<廣瀬教育長> ただいまの報告について御質問等ございますでしょうか。

<片桐委員> 今はもうなくなってしまったんですが、旧西遊佐小学校の子どもたちがボランティアで観光客を案内したりですとか、説明をしたりしていたんですね。それがすごく良かったなと思っているんですけど、非常に残念なんですけど学校が無くなったので、今は遊佐小学校に統合されたと思うんですけど、今はそういったボランティア活動というのはやっていないんでしょうか。

<文化財・生涯学習課長> そういったところは承知はしていないんですが、地域の方々が地元に残る文化財を活かしていくということを、遊佐町が取り組んでやっていくということですので、そういった取組みも含めてやっていければと思っています。

<廣瀬教育長> テーマを見ると日本遺産のテーマみたいで立派なテーマですよ。非常にいいと思いますね。

<廣瀬教育長> よろしいですか。では、次に、(2)「平成30年度山形県公立高校生のボランティア活動実態調査の結果について」、文化財・生涯学習課生涯学習振興室長から報告してください。

<生涯学習振興室長> 高校生のボランティア活動実態調査について、御報告させていただきます。報告2-1の表紙を御覧ください。

まず、調査の概要ですが、対象者は県内公立高校全日制の3年生全員で6,961名です。回答者は6,768名で、回答率は97.2%でした。調査は8月下旬から9月中旬にかけて行い、各高校でホームルーム等で回答してもらい、県青年の家で集計分析を行いました。

高校生のボランティア活動は、大きく2つに分けることができます。1つ目は、学校以外で行われるもの、具体的にはYYボランティアサークルの活動や、施設、団体の企画への参加などになります。2つ目は、学校の教育活動として行われるもの、具体的には学校・学年・学級単位の活動、あるいは部活動、委員会活動として行われるものです。

また、ボランティア活動はさまざまな分野にわたりますが、便宜上、いくつかの活動分野に分けました。下の方を御覧ください。このような具体例を生徒に示した上で調査を実施いたしました。なお、9ページに実際の調査票を載せております。

2ページを御覧ください。ここからが、調査の結果になります。一番上の右の表1の数値は、先ほど申し上げました、学校の活動以外と学校の活動としてのものを合わせて、高校3年間で一度以上ボランティア活動を行った生徒の割合を示します。本年度の調査では全体で82.7%で

あり、昨年度に比べて4ポイント以上増加し、8割を超えております。

3ページを御覧ください。このページは学校の活動以外における数値になります。一番上の表6、全体では34.7%であり、昨年度より2ポイント増加しております。男女ともに昨年度に比べて増加しています。男子の増加幅が大きくなっていますが、男女間の差は昨年度に比べて縮まったものの、依然として差は開いており、学校外における男子の活動を促していく必要があると考えております。

4ページを御覧ください。学校の活動における数値になります。一番上の左の表11、全体では76.4%で昨年度よりやや増加しました。昨年度から私立高校の3年生にも同様の調査を実施しております。参考として下に掲載しております。

5ページをお開きください。実際の活動分野になります。一番上の左のグラフ7からは、学校内外を合わせると、取り組みやすい環境整備の活動が多いことがわかります。また、その下のグラフ8からは、学校以外でボランティアに参加している生徒が、多様な活動を経験していることが伺えます。

7ページをお開きください。一番上の右の表19になりますが、一番下、そもそもボランティアに関心がない、という層が16.6%いるという結果になりました。小中学校の時からボランティア体験を行い、地域の大人から声をかけていただくことで自己有用感を高めていき、ボランティアの良さを知るとともに、地域への愛着を深めていけるよう、生涯学習振興室としても中学生に対する事業を強化しているところですが、地域とつながる人を育てていくために事業を一層推進して参りたいと考えております。報告は以上になります。

<廣瀬教育長>

ただいまの報告について御質問等ございますでしょうか。

<武田委員>

学校以外でのボランティア活動をするきっかけは、どういったものがあるのでしょうか。

<生涯学習振興室長>

申し訳ございませんが、その部分については調査しておりませんので、来年度以降の調査項目に入れるか、検討させていただきたいと思えます。

<武田委員>

理由もぜひ教えていただきたいと思います。

<涌井委員>

居住地ごとの経験率なんですけど、東南村山が低いというのは、進学校の生徒はなかなか関わりが薄いということなんですか。

<生涯学習振興室長>

地区ごとの人数が大きく違いますので、そういったことも影響するかと思いますが、進学校が多いため、ということも考えられますので、その辺も来年度分かるような調査方法を工夫していきたいと考えております。

<廣瀬教育長>

この調査は毎年データの継続ということでやっているわけですが、非常に時間と労力がかかるので、どういものも続けて、あるいは場合によってはスクラップするといった、ちゃんと検討してやらないと、なんでも取り入れると、資料が際限なく増えるので、良く検討、精選してください。

この調査によって何をどうしていくかということをも良く検討して、それに合わせて、何が必要なのか、場合によっては委員会にそれを示して協議すればいいんじゃないですか。

<武田委員>

どこまでボランティアに重点を置いて、学校や先生方が考えていらっしゃるのか、という部分がちょっと見えないなと思っていて、社会に出るきっかけであったり、課題に関心を持ったりと、非常に重要な視点が含まれているので、それを意識して積極的に参加していただきたいと思います。

<廣瀬教育長>

この調査をどう活用していくかというのは、なかなか難しいところがありますよね。数字だけが並んでいて分析的なものが無いんですね。この辺は少し検討させていただきたいと思います。

<涌井委員>

学校の活動以外の経験者率を上げた方がいいんじゃないかと思うんです。学校での活動は総合学習の時間で行うと思いますし。

<廣瀬教育長>

学校での活動は生徒じゃなくて学校に聞いた方がいいんじゃないかと思いますね。教科とかでやっているわけなので、当然100%やっているはずなんですよ。

もう少し趣旨・目的をしっかりと検討して。せっかく作っているわけですから。

<廣瀬教育長>

よろしいですか。ほかになければ、これより議事に入ります。

⑤議 事

<廣瀬教育長>

議第1号は人事に関する案件であり、議第2号は議会提案前の案件であることから、これより秘密会としていかがですか。

<各委員>

異議なし。

<廣瀬教育長>

御異議なしと認め、これより秘密会といたします。

《 傍聴者退室 》

《 議第1号及び議第2号は秘密会にて審議 》

⑥閉 会

<廣瀬教育長>

これで、第1066回教育委員会を閉会いたします。